

公明党要望項目一覧

平成29年度6月補正分

要望項目	左に対する対応方針等
<p>○鳥取市出身の故谷口ジロー氏を顕彰する作品展示施設を県東部に整備すること。さらに県東部にマッチした谷口ワールドを醸し出す工夫をすること。</p> <p>これにより、県内東中西にそれぞれ趣向の違った「まんが王国とっとり」の拠点施設が整備され、県内どこでも「まんがアニメ文化」を楽しめるようになる。</p>	<p>谷口ジロー先生は、本年2月に亡くなられたところであり、関係者のご意向を踏まえながら、まずは適切な時期に先生を追悼する取組を行いたい。</p>
<p>○あんしん・トリピーメールに「ヒートショック予報」の配信を加えること。</p> <p>気温が低い冬期には、入浴中の死亡事故が急増しておりヒートショックが主な原因と考えられている。2011年には全国で約17,000人の方がヒートショックに関連した入浴中の急死に至ったと推計されている。また、この人数は交通事故による死亡者数の3倍を超え、そのうち高齢者は14,000人と大多数を占めている。ヒートショックを防ぐ準備をする為に「ヒートショック予報」をあんしんトリピーメールで配信するよう取り組むこと。</p>	<p>県内の各消防局に確認したところ、浴室内で発生した65歳以上の救急搬送件数は平成28年度に231件あり、このうち、ヒートショックが原因と考えられるものも含まれることから、まずは実態を把握し、ヒートショックの予防等について効果的な普及啓発等の方策を検討した上で対応したい。</p>
<p>○山陰海岸世界ジオパークの平成30年夏の再審査に向けて、十分な準備対策をすること。</p> <p>ユネスコの正式事業になって以降初めての再審査であり、より厳しい審査になることが予想される。一方、ユネスコの正式事業になって初めて今年再審査を受けるのが、洞爺湖有珠山、糸魚川、島原半島、隠岐の四地域であり、それらの再審査の状況をよく見極めながら十分な対策をとること。</p>	<p>平成26年以来2回目となる世界ジオパークの再審査のポイントとして、外国語コミュニケーション能力の向上等、平成26年の世界ジオパーク再審査の際の指摘事項への対応や拡大エリア（鳥取市鹿野町・青谷町エリア）におけるジオパーク活動の振興等が想定される。これらについては、通訳案内士の活用や拡大エリアにおける解説パネルの設置などにより順次対策を講じてきたところである。</p> <p>また、ユネスコ世界ジオパークとなって初めてとなる再審査については、山陰海岸ジオパーク推進協議会及び関係府県市町等とも連携し、今年度再審査を迎える他地域の状況を鋭意分析しながら対策を取ることとしている。</p>
<p>○鳥取砂丘ビジターセンターが、砂丘東側に平成30年度、その後遅くとも31年度までには西側にも完成する予定となっている。これで鳥取大砂丘を体験・学習できる環境が整ってくる。これを東部観光振興と交流人口増加の好機と捉えて、国や鳥取市と協働して鳥取大砂丘振興に取り組むこと。</p> <p>ビジターセンター東館の活用はもちろん、西館についても「サイクリングセンター砂丘の家」、「柳茶屋キャンプ</p>	<p>鳥取砂丘ビジターセンター東館及び西館については、砂丘来訪者を案内する中核施設とすべく、環境省、鳥取市とともに、機能や運営体制等を検討中である。</p> <p>周辺施設やアクティビティ事業者等と連携し、来訪者が砂丘を体感できるプログラムづくりが重要と考えており、今後広く関係者から意見を伺う場を設け、多くの方の関与を得ながら官民連携した運営を行えるよう準備を進めているところである。</p>

要望項目	左 対 する 対 応 方 針 等
<p>場」、「鳥取砂丘こどもの国」と連携して活用されたい。具体的には、西館を鳥取大砂丘体験学習のビジターセンターとし、「サイクリングセンター砂丘の家」を拡充して少年自然の家としての機能を充実し、「鳥取砂丘こどもの国」も発表の場として活用するなどして、全国に例を見ない臨砂学校（または臨砂丘学校）として周辺一帯を活用されたい。県内外の生徒の自然体験研修の場として大々的に企画募集されたい。</p>	
<p>○鳥取県立農業大学校で GLOBAL G. A. P 認証取得に取り組むこと。 鳥取県で新規就農者が増えるなか将来の農業人材育成として、世界124か国17万人に及ぶ事業体が認証を受け、グローバル・アグリビジネスの主流となっている GLOBAL G. A. P 認証取得を鳥取県農業大学校において取り組むこと。</p>	<p>本県農業を担う人材育成機関として、食の安全・環境保全・労働安全の確保に視点を置いたGAPの実践は重要であり、平成30年度のGLOBAL GAP認証取得に向けて、対象作物の決定及び手順書の作成等の準備を進めている。なお、授業において既にGAP講座を導入しており、本年度はGAP認証に必要なほ場管理を行うなど講座の充実も図ることとしている。</p>
<p>○右折用簡易追加車線の安全対策をとること。 右折用簡易追加車線には線が引かれているものと引かれていないものがある。車線があまり広くないところに、無理矢理普通車が入り込んでサイドミラーなどがぶつかることがある。追加車線には、隣のレーンとの間に線を引くこと。</p>	<p>右折車線については、右折車も直進車も円滑に通行できるとされる道路構造令に基づいた幅員が確保できる場合（例えば、交通量の少ない地方部の道路である第3種第4級の道路では5.25m以上）に境界線を引くこととしている。 引き続き、道路構造令に従い適切に境界線を設置していく。</p>
<p>○性同一性障害に係る児童生徒の学校での支援を推進すること。 近年、心と体の性が一致しない「性同一性障害」の子どもが一定数いることが明らかになり適切な対応が求められるようになってきている。児童・生徒への適切な対応ができるよう学校への情報提供や指導・助言・研修等を推進すること。</p>	<p>平成29年3月に改訂した「鳥取県人権教育基本方針」の中で性的マイノリティの人権に関する教育の推進指針を示し、学校における支援の事例等についても記載して周知を図っている。 また、これまでに周知を行っている学校における留意点やQ&Aなどに係る文部科学省の通知も踏まえ、引き続き、研修の充実等、人権教育の取組のより一層の推進に努めてまいりたい。 なお、今年度は、教育センターの希望者を対象とした専門研修（人権教育）の中で、「性的マイノリティの人権」をテーマにした研修を実施する計画としている。</p>
<p>○鳥取県教育支援センター「ハートフルスペース」（東部・中部・西部）設置の周知徹底に取り組むこと。 平成22年度に東部の鳥取県教育センター内「ハートフルスペース」が設置され、概ね20歳ぐらいまでのひきこもりの青少年を学校復帰や社会参加に向け支援をしてきた。</p>	<p>これまでも各学校や児童相談所、障害者福祉センター、若者サポートステーションなどの関係機関等へのリーフレット「教育相談道しるべ」配布や学校関係者の会議やPTA役員研修会等において説明や情報提供等を行い、周知に努めてきた。 今後さらに、今まで情報が届きにくかった方に対して情報が届くように、公民館や児童民生委員などへの配布を行うほか、様々な機会を捉え、関係機関等と連携を図っていく。</p>

要望項目	左 に 対 す る 対 応 方 針 等
<p>県内利用者は平成22年度35人から平成28年度には52人と増えているものの、このセンターがあることを知らないひきこもりの家族がいる。</p> <p>今年度、中部・西部に設置するにあたり、ひきこもりに対する支援を実効性あるものとするために、市町村、教育機関、関係団体、公民館等に十分周知徹底し推進すること。</p> <p>※本県の調査（平成23年7月鳥取県青少年育成意識調査）で、19歳～29歳の年代に1,600人のひきこもり状態の人がいると推計されている。</p>	
<p>【個別要望】</p> <p>○鳥取市晩稲町内、ジャスコ北店とナフコ鳥取店に入る交差点において、信号等を設置するなど安全対策に取り組むこと。</p> <p>休日、時間帯により車の交通量が多く事故発生の危険がある為、地域住民より改善の要望が出ている。</p>	<p>要望箇所における信号設置等の安全対策については、現地の交通状況を見ながら検討する。</p>
<p>○鳥取駅北口駅前道路に、スクランブル交差点の設置、またはエレベータを設置されたい。</p> <p>鳥取駅北口から県庁方向に車椅子で行く場合、雨天時は地下通路を通るが、現在のエスカレータでは、車椅子の方が介助者を呼び出した時、来てもらうまで30分以上かかる場合もあり支障がある。スクランブル交差点にすれば、アーケードからアーケードまで直線距離で車椅子を動かすことができ、濡れる時間も少なくて済む。または、エレベータを設置すれば介助者を呼ばなくても地下通路を渡ることができる。東京などでは多くの駅でエレベータが設置され、車椅子対応だけでなく、ベビーカーや買い物カートやシルバーカー（老人用押し車）、高齢者、さらには一般の方も多く利用している。</p>	<p>鳥取市の「鳥取駅周辺再生基本計画（平成28年2月）」において、鳥取駅北側の歩行者動線の拡充（地下道のバリアフリー機能の拡充等）を検討し、道路管理者である県や交通管理者である警察と協議を行う計画となっている。今後、計画主体の鳥取市と調整を図りながら、対応を検討する。</p>